

# 碁石地区における復興と地域づくりアンケート調査 結果報告書(概要版)

碁石地区復興まちづくり協議会  
日本大学 建築・地域共生デザイン研究室

## I. 碁石地区における復興と地域づくりアンケートの概要

### 1) 調査の目的

震災から6年が経過し、2011年12月3日の第1回(仮称)碁石地区復興まちづくり協議会から数えて39回に及ぶ協議会を開き、碁石地区(西館, 旧泊里, 碁石, 三十刈, 山根)の復興や今後の地域づくりについて、様々な被災跡地を活用方法の検討を重ねてきました。

こうした中、現在までの復興状況や今後の地域づくりについて、碁石地区にお住いの皆さまが、どのような意識を持っているかを把握し、碁石地区の今後の復興と地域づくりの方向性を確認するため、アンケート調査を実施いたしました。この結果をもとに、碁石地区復興まちづくり協議会の進め方を改めて検討し、今後の地域づくりを進めていきたいと考えております。

### 2) 調査対象

碁石地区内の在住の328世帯の世帯主と、性別や年齢層の違うご家族(18歳以上)2名、計3名を対象に実施しました。

### 3) 調査方法

#### A) 配布・回収方法

- 各世帯にアンケート用紙を3部、跡地利用計画図を1部入れた封筒を配布。
- 各世帯への配布・回収は各地域の公民館長から班長さんを通じて実施。

#### B) 実施期間

- 回答期間 | 2016年9月21日(水) ~ 30日(金)
- 回収完了 | 10月2日

### 4) 回収状況

- A) 封筒配布世帯数 | 328世帯
- B) 封筒回収世帯数 | 209世帯 (回収率 63.7%)
- C) アンケート回収数 | 395部

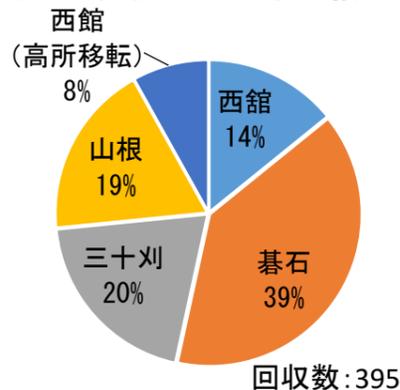
### 5) 分析方法

- 地域別での分析では所属公民館単位での集計とする。
- 一部設問ではアンケート調査(2013年8月実施)の結果と比較・分析する。
- 無回答の多い設問では傾向を見るため、無回答を除いた数値でグラフ化を行なう。

## 【碁石地区全戸アンケートの回収結果、及び前回との比較】

配布担当 公民館名	2016年9月実施				2013年8月実施	
	配布 世帯数	回収 世帯数	世帯 回収率	アンケー ト部数	世帯 回収率	アンケー ト部数
西館	55	27	49.1	56	62.8	67
碁石	100	79	79.0	155	41.7	102
三十刈	80	46	57.5	79	78.6	115
山根	70	40	57.1	73	64.6	88
西館 (高所移転)	23	17	73.9	32	-	-
全体	328	209	63.7	395	58.4	372

### 回収集落(公民館)構成

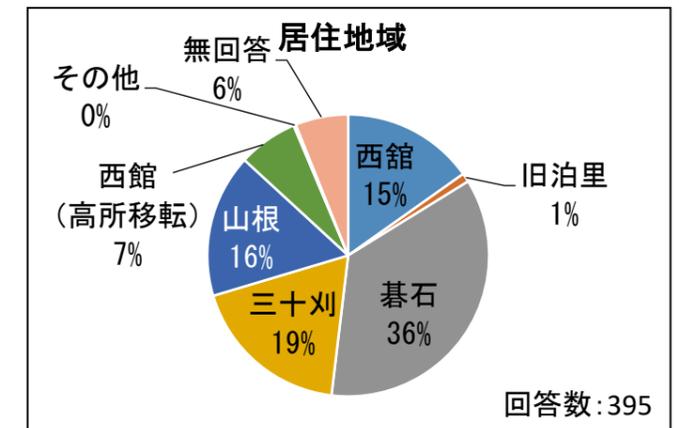
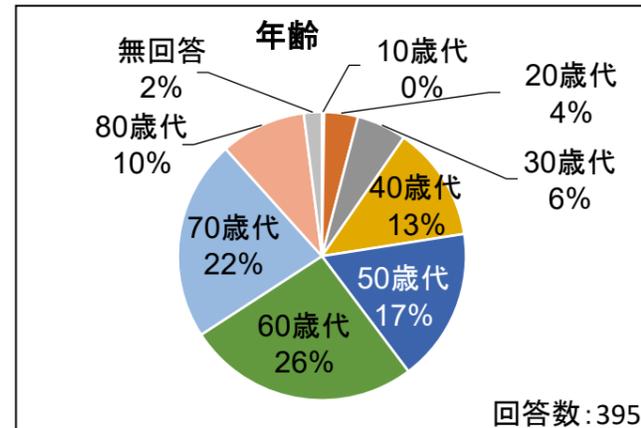
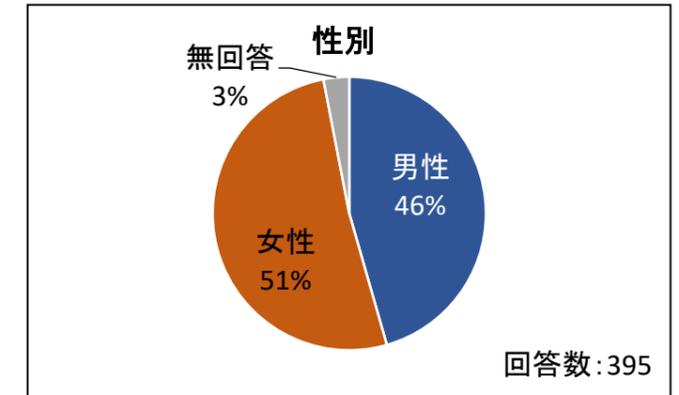


\* 旧泊里地域は西館・碁石地域に含まれる

## アンケート分析結果

### 回答属性

- 性別では男女でほぼ半数ずつ回答をした。
- 年齢では世帯主を中心に回答を依頼した為、40歳以上が90%を超え、60歳以上では全体の半数を占めた。
- 居住地域では各地域とも世帯主回答率はほぼ過半数を超えていた。
- 回答数では碁石地域が36%と最も多く、旧泊里以外は各地域でも15%以上であった。



### 復興状況の認識

- 震災から5年半が経過し、地区全体の55%の回答者が復興を感じ始めている。しかし、24%が復興を感じられていない。
- 防集事業での住宅再建や地区の被災者の生活再建が進んだことで復興を感じ始めている。しかし、更地の住宅跡地や遅れていた防潮堤工事などに復興の遅さを感じている回答もみられた。

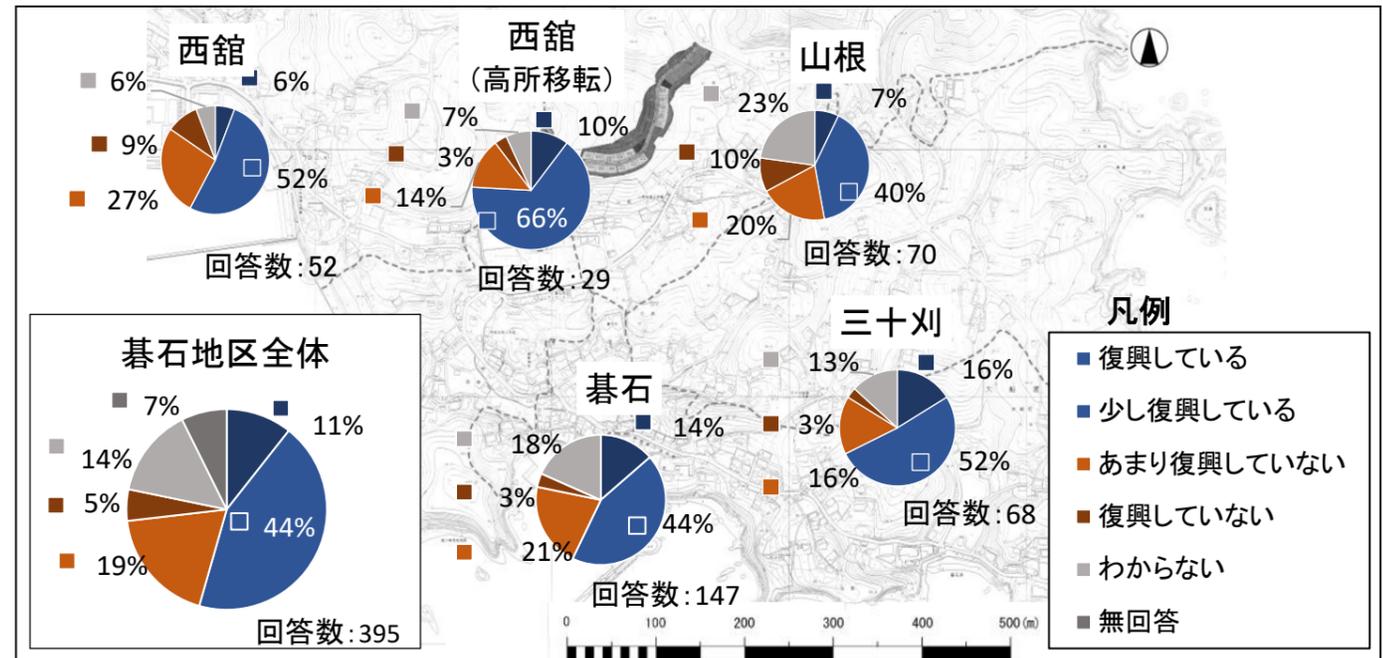
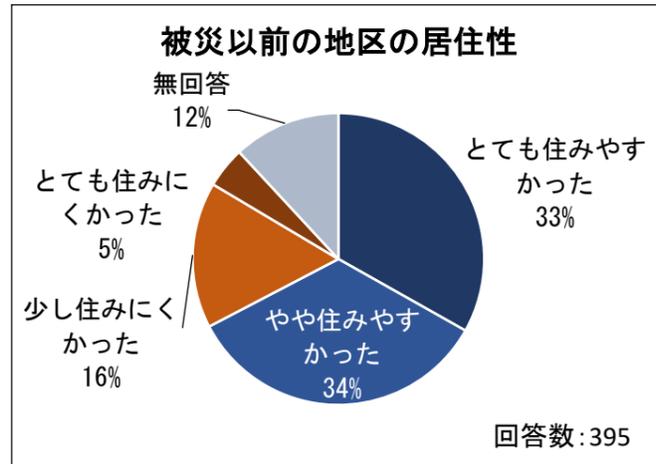
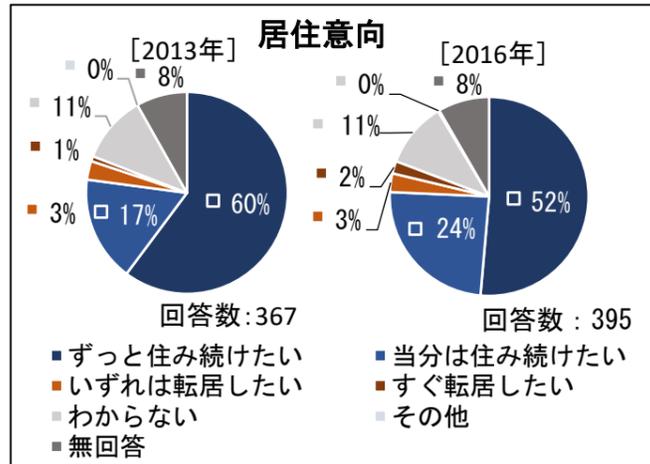
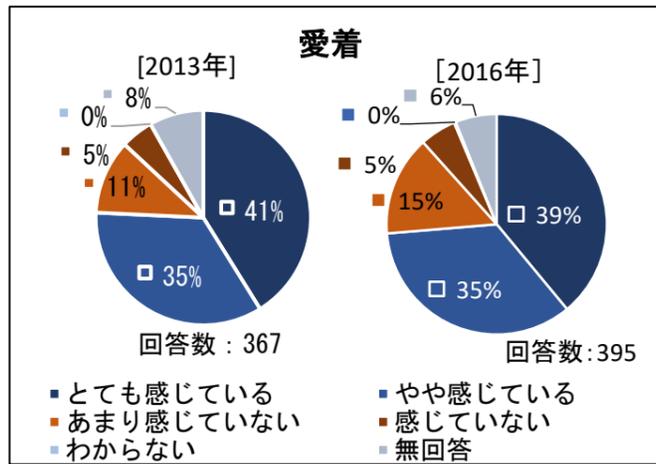


図. 地域別の復興状況の認識

## 碓氷地区への愛着と居住意向

- 愛着意識と居住意向ともに回答者の約75%が愛着を感じ、住み続けたいと回答した。
- 2013年の結果に比べ、愛着・居住意向ともに割合が若干減少している。
- 被災以前の地区の居住性では、7割近くが住みやすかったと回答したが、2割が住みにくかったと回答した。



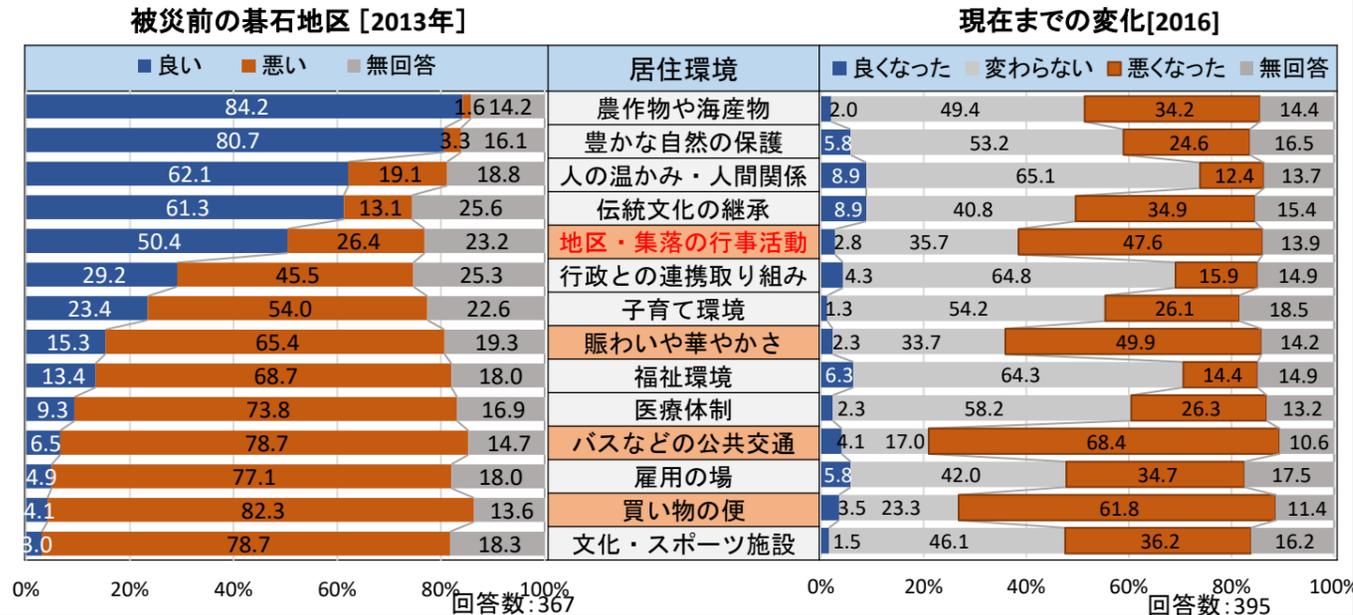
## 碓氷地区の居住環境の変化と課題

- 被災前に比べ「良くなった」の回答では10%を超えた項目がなく、全体的に居住環境状況は悪くなってきていると評価された。
- 被災後に悪くなった変化では、被災前から悪かった項目の「バスなどの公共交通」68.4%、「買い物の便」61.8%、「賑わいや華やかさ」49.9%で、さらに悪化が指摘されている。
- 充実すべき課題では日々の生活に直結するものが多く挙げられた。

### 地区として充実すべき課題

順位	充実すべき内容	票数
1位	バスなどの公共交通	128
2位	買い物の便	106
3位	医療体制	82
4位	子育て環境	63
5位	農作物や海産物雇用の場	53

### 被災前と現在の碓氷地区の居住環境の変化



## 地域別の住民が抱える課題

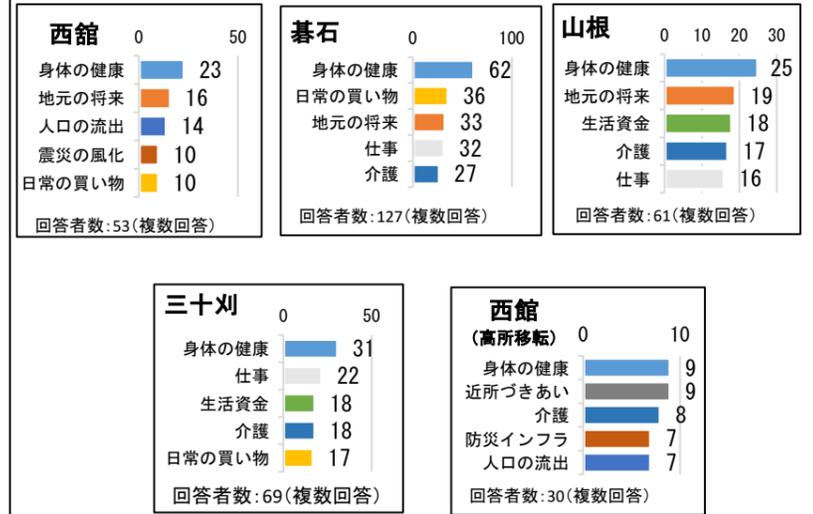
- 「身体の健康」が150人(44%)と多く、各地域別でも4割を占め、多くの方が健康への不安を抱えている。次いで、地元の将来が見えないことが89人(26%)である。
- 健康・地元の将来以外では、西館で人口流出や震災の記憶の風化が挙げられた他、三十刈・山根で生活資金、介護、仕事など、地域ごとに抱える不安や課題の特徴がみられた。高所移転地では、近所づきあいへの不安が提起されている。

### 現在、あなたが直面している課題

課題	人数
身体の健康のこと	150
地元の将来が見えない	89
仕事のこと	81
日常的な買い物	78
介護のこと	77
生活資金のこと	67
人口の流出	58
防災インフラ整備	47
近所づきあいのこと	38
こころの健康のこと	35
住まいのこと	35
育児・子育て・教育	33
支援制度等の情報不足	31
震災の風化	28
その他	8

回答者数: 340(複数回答) 0 160

### 地域別の住民が抱える課題 (上位5つ)



## 碓氷地区の理想の将来像についてのご意見

### 碓氷地区の将来像 (あるべき姿) 暮らし

#### 家族のように仲良く暮らせる碓氷地区であってほしい

例えば...

- 家族から地域単位へ移行し、地域住民の交流の場が増えてほしい。
- 心から地区を問わず語りあえる環境であってほしい。
- みんなが楽しく仲良くあってほしい。
- 地区内での横や縦のつながりがあり、協力的に暮らせる地区であってほしい。
- 皆で声をかけあい、助け合えるような環境であってほしい。

#### 買い物や医療などのサービスが受けられる碓氷地区であってほしい

例えば...

- 商店(コンビニ等)を以前よりも増やして、市内に行かなくても買い物できるようになって欲しい。
- 人口減により年寄りが増えるので、買い物・医療関係・金融の取扱いが出来る地区であって欲しい。
- 地域の商店で買い物もある程度出来る牧歌的な生活ができる地区であってほしい。

#### 今までのままの碓氷地区であってほしい

例えば...

- 古き良き碓氷地区がそのままの姿でいることが良いと思います。ここに生まれ、ここで生活し、ここで最期を迎えることが幸せだと思います。
- 都会的な現実的な物がここにはいらぬということもお考え下さい。
- 今のままが良いです。

#### 伝統的な行事やイベントが開催される碓氷地区であってほしい

例えば...

- 家族単位で行われてきた伝統的な年中行事を続けてほしい。
- コミュニティの行事があり、人の集まる地区であってほしい。

#### 公共交通や施設や道路が安全な碓氷地区であってほしい

例えば...

- 車がない人にも便利なバスの運行がされていてほしい。
- 2車線道路や子供やお年寄りにも安全な歩道がほしい。

#### 若者が近くで働ける(職場のある)碓氷地区であってほしい

例えば...

- 子供から老人まで遊べる、見れる、心のいやしができる観光地であってほしい。
- 浜を整備して漁業や観光で活気があってほしい。

## 第一次・第二次提言書の内容の認知度と評価

- 二度にわたり市長に提出した提言書の内容についての認知度は1割程度と非常に低い。
- 第一次提言書では提言書冊子の配布、まちづくりニュースでの内容紹介、第二次提言書ではまちづくりニュースでの概略紹介などを行ってきたが、周知が徹底できていないこと、**住民の関心度の格差があり**、今後の推進体制の見直し等が求められる。

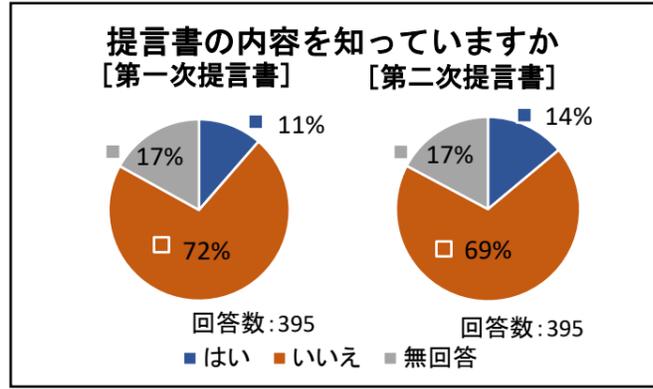


表. 第一次・第二次提言書の提案内容と評価

番号	提案内容(回答数)	評価				
		大変良い	良い	普通	やや不満	不満
①	観光客や来訪者のための避難路(307)	30.6	31.6	19.5	3.3	1.0
②	観光用の駐車場やBRT駅など浜の停車場(311)	23.8	35.4	24.1	1.9	1.0
③	西館地域の公民館(306)	21.9	29.7	24.8	4.9	2.6
④	海と浜里の暮らしを保つ防潮堤(311)	16.1	32.2	23.8	6.8	4.2
⑤	基石散策トレイルコース(306)	16.7	29.4	27.1	1.6	1.3
⑥	浜辺の環境観察や磯遊びなど体験型学習の空間(300)	15.0	30.7	26.7	3.3	1.3
⑦	多目的広場(運動や養殖業、お祭り等)と管理制度(312)	18.3	26.6	27.2	5.4	3.2
⑧	3.11の津波到達ラインに桜の木を植樹(313)	16.3	27.8	28.4	4.8	3.5
⑨	椿を中心とした地場産品の地域住民共同の作業場(305)	14.8	29.5	27.9	5.9	2.3
⑩	住宅跡地に「大船渡市の花:椿」を植栽した椿畑(307)	13.7	29.3	28.0	6.5	3.3
⑪	住宅地跡を四季の自然が楽しめる憩いの空間(308)	13.3	29.2	28.2	6.2	2.9
⑫	蓮田と西館公民館の間に西館公民館の庭(301)	13.3	28.9	25.6	7.0	4.0
⑬	浜の暮らし体験センター(自然や津波堆積層の観察、体験学習等)(307)	12.7	25.4	27.7	4.9	2.6
⑭	囲碁の棋士が参加する定期的なイベント(313)	9.3	22.4	34.5	6.4	2.9
⑮	平和と復興のシンボルとして中尊寺蓮を植えた鎮魂の蓮田(315)	10.8	20.0	26.7	4.1	3.8
⑯	箱根山への碑銘塔(310)	11.3	19.0	32.6	5.8	3.2
⑰	西館城への案内板や簡易資料館(305)	11.1	16.4	29.8	6.6	6.9
⑱	被災家屋跡に残された井戸の震災遺構化(306)	9.5	14.7	31.0	8.8	4.9

回答数: 300~315

- 評価上位は、震災の経験を活かし安心・安全な「避難路」、失われた「西館公民館再建」、これからの観光を見据えた「駐車場・BRT駅」、防潮堤など施設の復元や拡充がほぼ50%以上である。
- 防潮堤に関しては、**本アンケートでは高さ問題については触れておらず、提言では浜とのつながりや壁面緑化等の提案を含んでおり**、評価されているものと思われる。防潮堤の高さ・形状に対する満足度を示す回答ではないことは留意しておく必要があると考える。
- 基石浜奥での観光用の駐車場整備提案に関しては、高い評価を得ており、今後の整備が地区の復興のカギともなる。
- 跡地での地区のイベント広場の確保に関しては、45%程度の賛成であった。
- 評価下位では、「鎮魂の蓮田」や「西館城案内板や資料館」など、復興に伴う個別アイデアに関しては、十分な理解ができず、関心度合も低く、**評価されない傾向がある。**

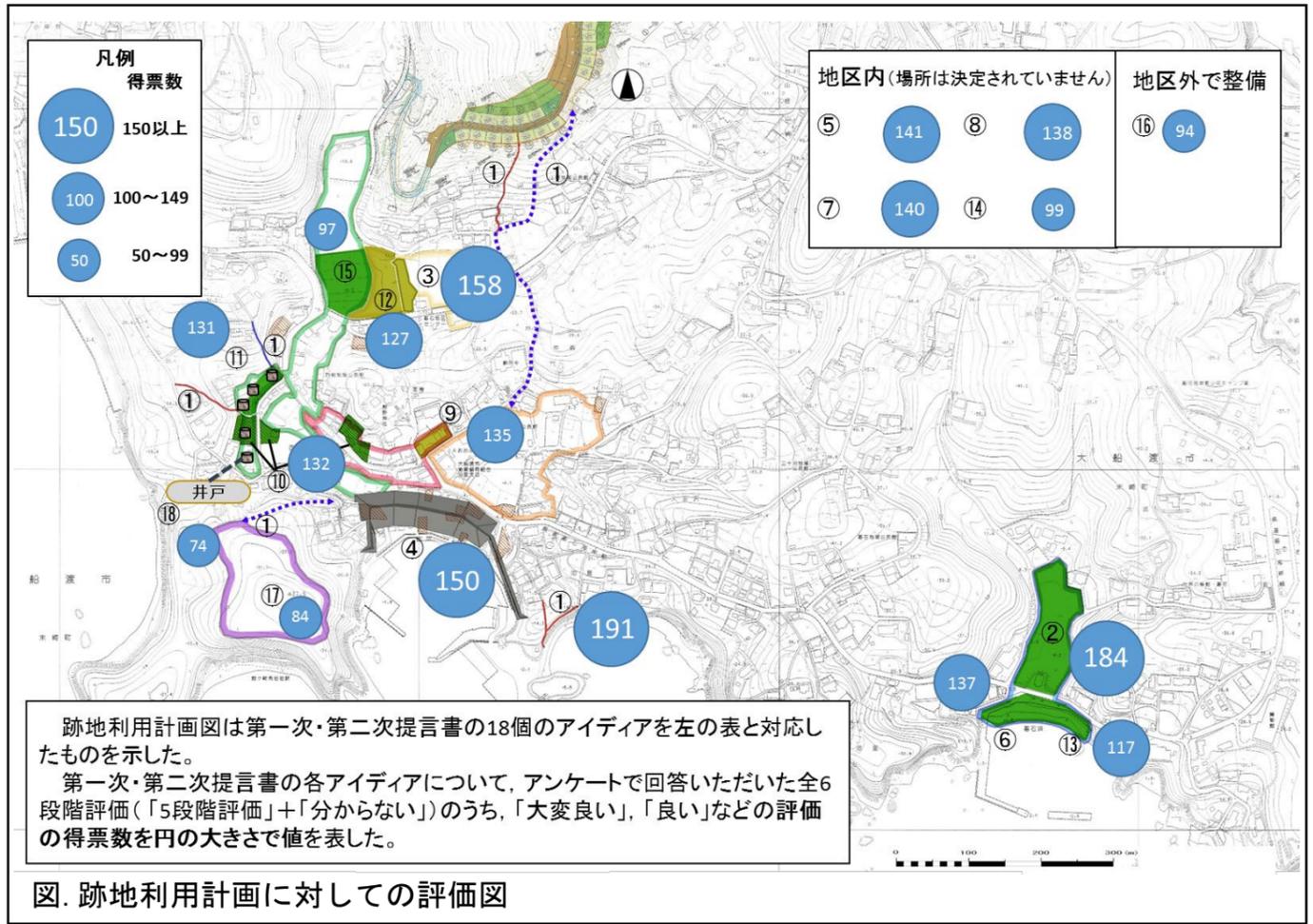
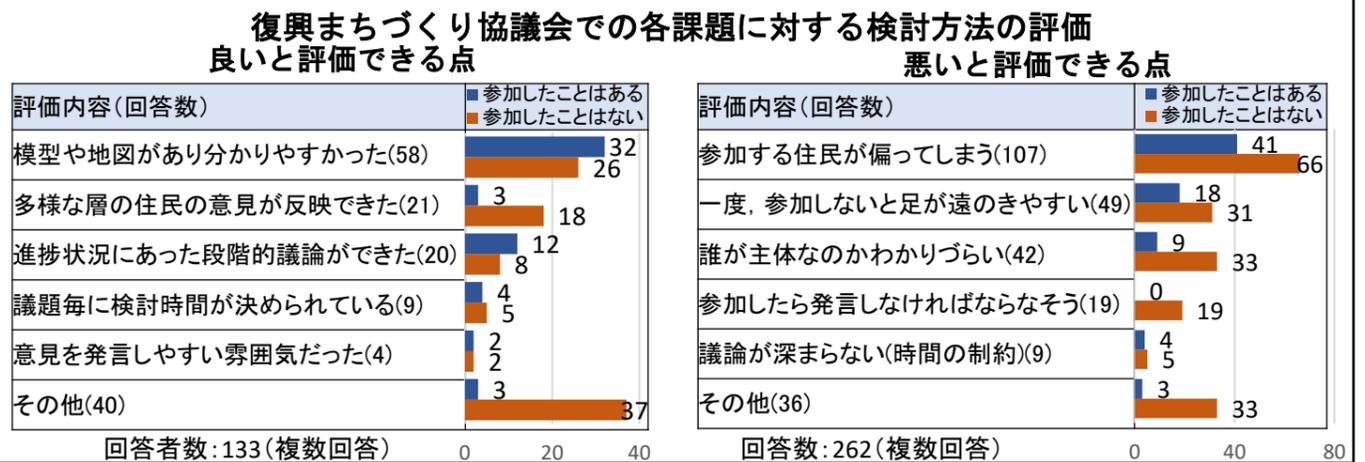
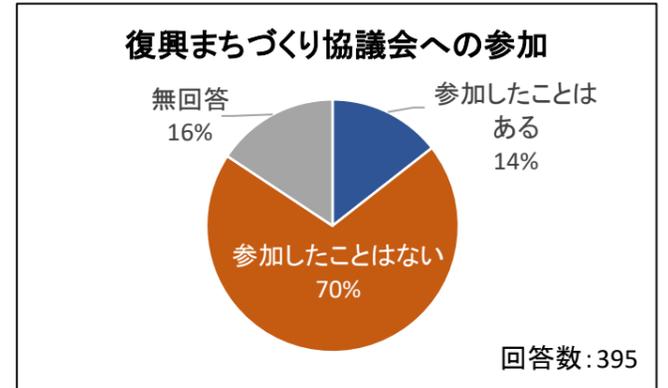


図. 跡地利用計画に対する評価図

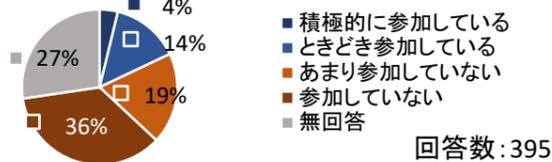
## 復興まちづくり協議会への参加度合と課題評価

- 協議会へ参加したことがある方は14%と低い。協議会への多様な参加形態を今後考慮する必要がある。
- 模型や地図を活用した検討方法は参加の有無に拘わらず、高い評価を得た。
- 協議会への参加者の偏りや会の雰囲気不参加の要因として挙げられた。協議会の体制と**運営方法**の見直しが必要と思われる。



## 復興まちづくりへの参加度合と課題

### 復興まちづくりへの参加



- 活動への参加は18%と低い結果になった。
- 課題では若者の減少や高齢化等の活動主体の減少、活動内容の周知不足が挙げられた。

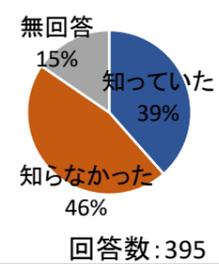
## 復興まちづくりの課題

復興まちづくりの課題(回答数)	回答数
若者の減少(63)	64
活動内容がわからない(49)	50
ひとり暮らしや高齢者世帯の増加(48)	49
若者の集落行事への不参加(34)	34
役職や係りの多さ(19)	19
女性や若者の意見が反映されない(18)	18
行事の多さ(7)	8
伝統行事の保存方法(6)	6
区費等の金銭的負担(4)	4
その他(2)	2
わからない(28)	32

回答者数: 139 (複数回答)

## 協議会での外部支援に対する認知度と満足度評価

### 技能者や大学の参加認知度



お年寄りや子どもにもわかりやすく、難しい言葉はできるだけ使わないで！

### 今後の復興まちづくりでの専門家に対する意見・要望

**まちづくりの中で 叫んで(助言が)欲しいこと**

例えば…  
 ○子供と子育て世代が暮らしやすいまちになるように助言してほしい  
 ○自然を大切にしたいです。  
 ○ありのままのこの地区に住みたいと思う人に情報を配信してほしい。

### 現実味のある 提言や計画なのか不安

例えば…  
 ○地域の現状を踏まえた上での現実的な内容のアドバイスをお願いしたい。  
 ○地域にあった提言をお願いしたい。  
 ○理想と現実の違いが大きい。  
 ○行政にどのくらい関わっていただけるか、不透明です。

### まちづくりの専門的な内容を 分かりやすく伝えてほしい

例えば…  
 ○専門的な事は素人に分からないので、これからも色々アドバイスしてください。  
 ○住みよいまちづくりについて、専門的な知識を生かしてほしい。  
 ○専門家の力というものは必ず必要かと思われま。今後も専門家に参加してほしい。

### 協議会への参加者の偏りが心配 見直しが必要では

例えば…  
 ○偏った住民だけで、地主不在で、勝手に物事を進め、大変憤慨している。口だけ、言うだけで失敗すればフェードアウトしてしまう、有識者はいない。  
 ○専門家の参加は、大変ありがたい。ただ地元の人参加が少なくなり、公民館長等限られた人のみになった傾向あり。今後の課題と思う。  
 ○協議会への参加者がごく限られた一部の人で行われているのが気がかり。  
 ○もっと地域の人が参加する工夫、受け入れられる工夫が必要。

- まちづくりへの支援では、まちづくりの用語解説や検討での模型や3D図面などイメージ提示が「良い」として3割程から評価された。しかし支援全般に1割程度住民からの不満が指摘された。
- 支援評価で3割程度の良いという評価が果たして高いかどうかは、今後検討をする必要がある。

## 津波被災跡地利用への支援に対する評価・満足度

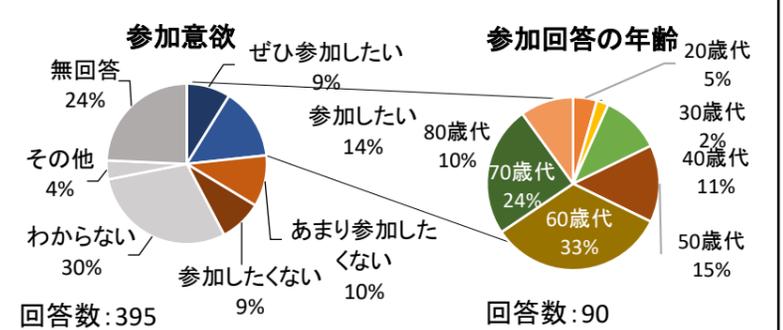
支援内容(回答数)	大変良い	良い	普通	やや不満	不満
地区の地形模型を作成・使用した土地利用イメージの提案(215)	11.6	23.7	52.1	10.2	2.3
高所移転住宅地・住宅再建に向けた解説や提案(221)	12.7	20.8	52.5	10.0	4.1
復興まちづくりの進捗状況を周知するニュース作成・発行(231)	7.8	25.5	52.4	11.7	2.6
新設予定の防潮堤の三次元データ化によるイメージ提示(218)	8.7	22.5	55.5	9.2	4.1
復興まちづくりに関する行政施策の進捗状況の把握・提示(233)	7.3	22.7	55.4	12.0	2.6
アイデアや意向を文章や図に視覚化した会議資料の提示(224)	8.0	21.4	59.4	6.3	4.9
仮施設設置整備事業の活用による店舗再建の支援(218)	9.6	18.3	57.3	9.6	5.0
アンケートやヒアリング調査での意見の定量的収集と分析(229)	9.2	16.6	58.5	10.9	4.8
提言書としてのまとめ(224)	8.5	15.6	62.5	8.5	4.9
西館城など歴史資源の活用法に関する調査や先進事例紹介(220)	8.2	15.0	59.5	11.4	5.9
水質や緑の現状分析・評価に基づく地区の客観的環境評価(213)	6.6	16.4	64.3	9.4	3.3

回答数: 213~233

## 復興まちづくり協議会への今後の参加意思やご意見

- 全体の23%が参加の意思を示しており、参加しやすい日程や議題、体制づくりが求められている。
- わからない等を含め、無関心層が6割近くいることも課題である。
- 参加したいと回答した年齢層では、60代以上が6割を占める中、20~40代の若手も2割回答している。

### 復興まちづくり協議会への参加意欲



## 復興まちづくり協議会に対する意見

### 復興まちづくり協議会の開催日や時間・メンバーを見直してほしい

例えば…  
 ○昼の会議では仕事があると参加できません。  
 ○仕事をしながらだと協議会の日に行くのは大変。時間がなかなか合わないで行くことも出来ないと思います。  
 ○大人たちだけでなく。高校生~20歳代、30歳代のこれから生きてゆく人達の参加も必要だと思います。  
 ○時間の設定を工夫してほしい。対象をしばっての集会等の時間等を設定して実施してほしい。

### 若者は若者で生活・地域のために 忙しいんです！

例えば…  
 ○仕事から帰り、五年祭の練習に出かけ、帰宅したら夕食・入浴です。アンケートに取り組む時間はありません、と20代の男の声です。  
 ○乗船している時期がながく、色々な行事、活動に参加出来なかった。すみません。

### 未来の基石地区に投資してほしい

例えば…  
 ○子供たちが遊べる場所が少ない。末崎町内に公園が無くなった事、海岸が被災後整備されない為、遊ばせられない場所がある。子供たちが気軽に遊べる場所、遠方からも遊びに連れて来たいと思える公園、アスレチックを作るべき。子育て世帯には住みにくい地区です。

### 復興まちづくりの提言内容 本気に実現できるのか疑問

例えば…  
 ○実現したいと本気で考えているのなら、地元住民への説明・理解・承諾等の下準備をしてから行政に提案すべき。  
 ○高齢化で自前の土地の管理も難しく、市の一斉清掃もままならない近年、理想ばかりで整備しても維持管理も出来ないまちづくりになってしまうと思います。  
 ○高齢者世帯が多い中、誰が維持管理するのか。これ以上の各々の負担はいらぬ。  
 ○地元への周知と意見集約が課題である。人口減と高齢化の中で、プラン実施から、将来にどう継続していくかが課題です。  
 ○まちづくり協議会に参加していないため、取り組みがよく分からない。(被災した部落であるため、どうしても参加しにくい。) 権にしろ運にしろ、その後の管理を上手くしてほしい。道路脇で見苦しい時もある。

### 復興まちづくりの協議内容の 情報の発信を工夫してほしい

例えば…  
 ○地域づくりの様子がよく分からない。高齢者世帯にもわかるような周知方法を…  
 ○このアンケートの結果を知りたい。その上で対策が考えられるかもしれない。  
 ○皆で話し合いをして、皆へ周知をする努力を。例えば、老人と若者でゲートボールをしながら、一緒に考えるとか…

## 復興まちづくり協議会の活動に対する質問(意見)と協議会・日本大学からの回答

質問1. 西館の田にどれ位のお金をかけて復旧したんですか。その田を耕作していませんね。全く無駄な事をやっています。漁港でも同じ、泊里の外側の船曳場です。後継者も何人もないんです。台風が来る度、壊れて修理、又修理。先日の台風でも壊れました。防潮堤を作る場合も門之浜の様にコンクリート一色で十分です。  
 回答: 津波で被災した農地は、行政の災害復旧事業に地主が応募し原形復旧の工事が実施されましたが、西館の農地もその工事に含まれます。農地として管理する為にも災害復旧事業は必要な事業です。その後の利用が無いため、地区の為に貸してくれないかと依頼し、利用法を検討しています。  
 泊里の外側の船曳場は、協議会ではなく、漁協関係者と行政との協議の中で検討が進められています。復旧の要望・必要性があり、**農地と同じく原形復旧の形で**工事が進められているのではないのでしょうか。(まちづくり協議会)

質問2 広場、桜、椿、誰が管理するのですか。地域なら大反対です。大木になれば地域が暗くなり夜も歩けません。  
 回答: 広場整備が必要かどうかを含め、まちづくり協議会で検討中です。植栽位置、管理方法等についても住民の皆さんの意見を聞きながら検討を進めています。協議会は、地域の皆さんの自由な発言の場であり建設的な意見をお願いします。(まちづくり協議会)

質問3 協議会自体の仕組み(構成)、経費の出所等がわからない。  
 回答: 基石地区復興まちづくり協議会は、基石地区復興協議会の下部組織で、基石地区4地域の公民館長他役員によって構成されています。また協議会の運営費として、復興協議会より年間 50,000円 の予算をつけてもらっております。現在まで殆ど使用しておりません。支援を頂いております専門家のみさんの参加は、各自が研究費や助成金を工面し、交通費や宿泊費に充てており協議会からの支援はゼロです。(まちづくり協議会)

質問4 なぜ、日本大学の皆さんにこの町の進め方を答える必要があるのでしょうか?この町はこの町で決めます。  
 回答: 当研究室では協議会の依頼を受けて、基石地区復興まちづくりについての提案・指導・アドバイス等の他、住民の皆さんの意見を反映させるために、ワークショップ形式での意見集約やアンケートなどを通じて支援しています。(日本大学建築・地域共生デザイン研究室)